

2. 大学の経営改革への期待 (2)

- ・研究、教育、地域や社会への貢献を永続 ← 経営を意識
- ・活動に伴う資金を確保し、それを目的に応じて効果的に活用
- ・高等教育機関における研究や教育は「ビジネス」

- 研究や教育の内容に魅力があれば、企業の投資を招き、学生も集まる
- 国内市場の規模に限界があれば海外の市場の需要、効率的な事業運営を
- 時には大胆な構造改革



- 運営費交付金等、国の限られた資金は先細り必至
→ 依存体質の見直し
- 少子化による学生の減少

必要な資金を自ら稼ぎ出し、経営の効率化をはかる大学は、基礎的な研究の資源を抑制しつつある民間企業の重要な投資先に

経営者としての理事会と研究者・教員の情報共有や交流の場である教授会の機能の違いを明確に

学長の権限を実効的に強化し、明確な目的、政策、評価基準により「経営」

大学の機能別再編と資源配分を取り込んだ経営

3. 大学教育への期待（1）

研究者のみならず、設計、生産、サービスなどの多様な仕事に取り組む技術者や技能者（総合して「技術人材」）の安定した育成

1. 自ら課題を設定・解決する力
2. 専門分野の基礎基盤的な知識
3. 技術と市場が見え、インテグレーション（統合・融合）による新たな価値を創出する力

高度な
コミュニケーション力

人文社会科学の素養

数学や統計学を駆使した
データの分析力

多様性から価値を作り
出すプロデューサ能力

広義の
システムエンジニアリング
（構想力、設計力）

3. 大学教育への期待（2）

イノベーションの創出には、先端的な技術開発の人材だけでなく、常識に縛られず既存の技術の組み合わせから価値を生む人材も必要

- 大学院での研究活動に軸足を置き過ぎる傾向 ⇒ 学部教育の弱体化
- 基礎基盤分野の学力を欠いたまま研究室の先端的な研究の支援要員となるため、視野が狭くなる傾向

演習型、討論型のコースワーク、
ケーススタディ

アイデンティティや人間性を高める
リベラルアーツ

構想力やシステム力を高めるカリ
キュラム

課題解決にあたる体験

ダイバーシティ力を高めるインター
ンシップ、海外留学、国際交流

カリキュラム強化例

大学教育の**カリキュラム**に関する**産学の対話**

→ 基礎基盤分野の学力の涵養、構想力やシステム力向上

4. 産業界と大学との連携強化（1）

経営革新のできるもの同志が連携を強めて結果を出すことで、イノベーションが生まれ、生き残り競争に先行

- 大学の基本的な役割は、①人材の育成(教育)、②新たな知の創造(研究)、③地域や社会への貢献(社会性)
⇒ これら全てにおいて産学連携が必要
- 産業界と共に知の創出を。他の技術との融合、組合せも推進し、事業を通して社会変革（イノベーション）を実現。日本の競争力が強化
- 国内大学との共同研究費が少ない（次頁説明）

研究者個人が取り組みたい研究に援助する形が多い。

海外の大学

企業の求める研究開発テーマを分析し、組織としてプロジェクトを企画して、必要に応じて大学側もリスクをとり、成果もコミットする形で提案